

産褥期・新生児のアセスメントとケア

更新日：2021/03/03 16:58:28

開講年度	2021	学期	通年	シバースト ^o	87070		
学年	1	曜日/時限		単位数	2.0	科目コード	870800
担当教員	園田 希						
学部/学科	大学院 修士課程 助産教育コース 助産教育						
備考	必修/選択：専攻領域必修 授業形態：講義						

授業の目的

産後の母体と新生児の経過が正常（生理的な変化）であるか、また、逸脱・異常およびハイリスク状態の徴候がないかをアセスメントし、褥婦と新生児に対して適切なケアを選択し、親として自立が図れるよう家族を含めた健康教育（個別・集団、訪問による指導を含む）を行うために必要な能力を習得する。

到達目標

1	正常な経過をたどる褥婦と新生児および家族に対するケアの原則について説明できる
2	正常な経過をたどる褥婦と新生児に対する助産過程の展開ができる
3	産褥期に必要な不可欠な授乳指導、沐浴指導、退院指導についての保健指導案を作成できる
4	特別なケアを必要とする褥婦と新生児およびその家族のケアを考察することができる

DPとの関連

DP6（助産）○

DP7（助産）◎

DP8（助産）○

授業計画

1	助産師が行う産褥期・新生児期のケア 【授業内容】産褥期のケアの理念、産褥期のケアに求められる実践能力、新生児期のケアの基本について学修する。 【授業方法】講義 【担当】園田
2	産褥期における社会的課題 【授業内容】周産期における社会的問題について、大学院生によるプレゼンテーションと討議を行う。 【授業方法】演習 【担当】園田
3	褥婦の身体的側面のアセスメントと助産診断・ケア① 【授業内容】経膈分娩後、産褥1日目の初産婦の事例を用いて、褥婦の身体的側面のアセスメントと助産診断・ケアについてプレゼンテーションと討議を行う。 【授業方法】演習 【担当】園田
4	褥婦の心理的・社会的側面のアセスメントと助産診断・ケア① 【授業内容】経膈分娩後、産褥1日目の初産婦の事例を用いて、褥婦の心理的・社会的側面のアセスメントと助産診断・ケアについてプレゼンテーションと討議を行う。 【授業方法】演習 【担当】園田
5	子宮外生活への適応のアセスメントと助産診断・ケア① 【授業内容】経膈分娩にて出生した日齢1日目の新生児の事例を用いて、子宮外生活への適応のアセスメントと助産診断・ケアについてプレゼンテーションと討議を行う。 【授業方法】演習 【担当】園田
6	助産ケアの実際 【授業内容】実際に行われている助産ケアを学修する。 【授業方法】講義 【担当】福岡赤十字病院 本田しのぶ
7	親役割獲得を促進する支援① 【授業内容】親役割獲得を促進する支援である育児指導や授乳指導に関する指導案のプレゼンテーションおよび討議を行う。 【授業方法】演習 【担当】園田
8	褥婦の身体的・心理的・社会的側面のアセスメントと助産診断・ケア② 【授業内容】経膈分娩後、産褥3日目の褥婦の事例を用いて、褥婦の身体的・心理的・社会的側面のアセスメントと助産診断・ケアについてプレゼンテーションと討議を行う。 【授業方法】演習 【担当】園田
9	子宮外生活への適応のアセスメントと助産診断・ケア② 【授業内容】経膈分娩にて出生した日齢3日目の新生児の事例を用いて、子宮外生活への適応のアセスメントと助産診断・ケアについてプレゼンテーションと討議を行う。 【授業方法】演習 【担当】園田

10	親役割獲得を促進する支援① 【授業内容】親役割獲得を促進する支援の1つである沐浴指導に関する指導案のプレゼンテーションおよび討議を行う。 【授業方法】演習 【担当】園田
11	セルフケアを伸ばす支援 【授業内容】セルフケアを伸ばす支援の1つである退院指導に関する指導案のプレゼンテーションおよび討議を行う。 【授業方法】演習 【担当】園田
12	正常からの逸脱① 【授業内容】産褥期の疾患について、臨床推論をもとに情報収集から診断までの思考過程を強化する。大学院生による討議を行う。 【授業方法】演習 【担当】園田
13	正常からの逸脱② 【授業内容】産褥期の疾患について、臨床推論をもとに情報収集から診断までの思考過程を強化する。大学院生による討議を行う。 【授業方法】演習 【担当】園田
14	帝王切開のケア 【授業内容】産褥期における帝王切開のケアについて学修する。 【授業方法】講義 【担当】園田
15	ペリネイタルロスとグリーフケア、医療者のレジリエンス 【授業内容】ペリネイタルロスを経験した女性へのケア、ケアを行う医療者のレジリエンスについて学修する。 【授業方法】講義 【担当】園田

学習方法

第1回授業で既習知識（産褥期、新生児期）の試験を行う（評価に含めない）。

褥婦、新生児の事例を用いた産後1日目から退院までの助産過程の展開を行う。その中で、対象の個別性を生かした助産計画及び保健指導案を作成し、討議を行う。また、特別なケアを必要とする褥婦と新生児およびその家族について講義・演習を通して学修する。以上を通して、褥婦・新生児に対する助産ケアにアセスメント力および実践力の強化を図る。

オフィスアワー

木曜日の昼休み、もしくは事前にメール（園田：no-sonoda@jrckicn.ac.jp）にてアポイントを取って下さい。

テキスト

特に指定しない

参考文献

荒木勤：最新産科学 正常編（改定第22版）. 東京, 文光堂, 2008.

荒木勤：最新産科学 異常編（改定第22版）. 東京, 文光堂, 2012.

江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア. 東京, 日本看護協会出版会, 2021.

我部山キヨ子他：助産学講座7 助産診断・技術学II[2] 分娩期・産褥期 第6版. 東京, 医学書院, 2021.

石井邦子他：助産学講座8 助産診断・技術学II[2] 新生児期・乳幼児期 第6版. 東京, 医学書院, 2021.

北川真理子, 内山和美：今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程（改定第4版）. 東京, 南江堂, 2019.

進純郎：分娩介助学 第2版. 東京, 医学書院, 2014.

仁志田博司：新生児学入門 第5版. 東京, 医学書院, 2018.

日本ラクテーションコンサルタント協会編：母乳育児支援スタンダード第2版. 東京, 医学書院, 2015.

評価方法

筆記試験（50%）、事例展開の資料および指導案（40%）、講義への貢献度（10%）